

すぎなみ大人塾

地域コース：久我山～浜田山コース

# コミュニティデザイン

## って？

～人とつながるしくみを考えよう～

学習支援者

矢野 恒

学習支援補助者

尾関 久子

岡田 美津江





# すぎなみ大人塾 久我山～浜田山コース

## 1. 概要

### コース開講2年目

久我山～浜田山コースは、令和5年度に開講し、今回で2年目の開催となりました。令和5年度から引き続き関わってくださった学習支援者・学習支援補助者のほか、新たに「サポーター」という役割で、令和5年度の卒塾生や地域包括支援センターの方々にグループワークの補助などでお力添えいただきました。

また、受講生は、今回初めて参加した方と令和5年度も参加していた方が共に学び、情報交換する中で、この地域について新たに知ったり、考えたりすることにつながりました。

### 「コミュニティデザイン」をテーマに

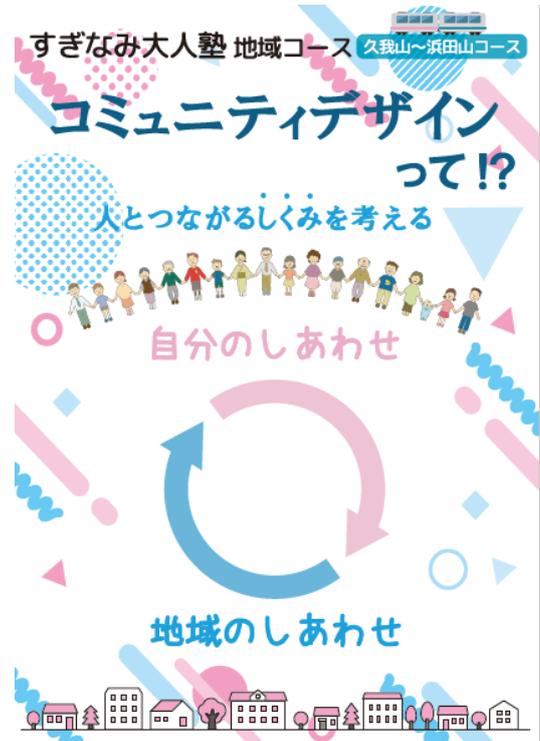
今回は、コミュニティデザインを切り口に地域について考える講座としました。人と人がつながり、コミュニティが生まれることで、右記チラシに描かれているように“自分のしあわせ”のための行動が“地域のしあわせ”となり、また、“地域のしあわせ”を思うことが“自分のしあわせ”にもつながります。

講義やグループワークを通して、これらのことを学べるようにプログラムを設計しました。

### エリア別のグループワーク

第1回、第2回にて、相手を替えながらペアワークやグループワークを行い、コース全体にどのような人たちがいるのか少しわかってきたところで、第3回に最終回までワークを行うグループ分けを行いました。久我山～浜田山エリアを3つに分け、計5グループとなりました（詳細は「5.講座内容の紹介」参照）。

ご自身に馴染みのあるエリアについて話し合うことで、“地元のあるある”を共有でき、会話のきっかけがつけられました。同じグループで話し合いを重ねる中、受講生同士が打ち解けて、話が止まらないこともありました。



**学習支援者**  
矢野 恒 (やの やすず、まちづくりコーディネーター)  
「地域」を知るために「Dと」が盛り、「Dと」が盛り合うことで地域が生まれ、発展が生まれることコミュニティが大切。そして、すぎなみ大人塾地域コースでは、「Dと」がそれぞれ持つ「得意力」を育み、今年度は「コミュニティデザイン」をテーマに、「Dと」と「Dと」のつながり、そして地域とのつながりを、受講者の経験と一緒に考え、話し合っています。

**コーススケジュール**

第1回 <b>6月29日(土)</b> 10:00～12:00 高井戸地域センター	第2回 <b>7月27日(土)</b> 10:00～12:00 高井戸地域センター	第3回 <b>9月7日(土)</b> 10:00～12:00 高井戸地域センター
「仲間づくり」のスタート みんなが コミュニケーション!	キャッチコピーでまちづくり ゲスト講師：竹島 雄 (国語のコピーライター)	私たちの地域について みんなが考えてみよう
第4回 <b>10月5日(土)</b> 10:00～12:00 久我山会館	第5回 <b>11月16日(土)</b> 10:00～12:00 久我山会館	いろいろな地域の まちづくりを知ろう
コミュニティデザインを 平ぼう ゲスト講師：橋上 彩り香 (D&Dコピーライター・author TOKYO 代表)	第6回 <b>12月7日(土)</b> 10:00～12:00 浜田山会館	私たちの 地域のしあわせって 何だろう?
第7回 <b>1月25日(土)</b> 9:30～12:00 浜田山会館	学びをシェアしよう	

【日 程】 令和6年6月29日(土)～令和7年1月25日(土) 全7回  
【参加費】 無料 (グループ活動に際する費用等、一部実費がかかることがあります。)  
【対 象】 杉並区在住の方  
【定 員】 30名 (定員を超えた場合は抽せんになります。)  
【申込方法】 令和6年6月2日(日) 申込フォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。▶  
【締 切 日】 申込フォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。▶

**学びあいの伴走者**  
尾崎 久子 (リ・ソーシャルカー)  
鶴田 美津江 (青少年委員)

※すぎなみ大人塾卒業生、地域で活躍する方がみなさんの学びあいに伴走します。

【主催・連絡先】 杉並区現代社会教育センター  
TEL: 03-3317-6521 (平日9:30～17:00) E-MAIL: shakiyo@city.suginami.lg.jp

## 2. 実施状況

◇講座（全7回）

時間：10：00～12：00

会場：高井戸地域区民センター、久我山会館、浜田山会館

◇学習支援者：矢野 恒（やのや主宰、まちづくりコーディネーター）

◇学習支援補助者（学びあいの伴走人）：尾関 久子、岡田 美津江

	日	内容	学習支援者 & 講師	参加
1	6月29日（土）	「仲間づくり」のスタート みんなでコミュニケーション！	矢野 恒	30人
2	7月27日（土）	キャッチコピーでまちづくり	竹島 靖 （伝説のコピーライター）	26人
3	9月7日（土）	私たちの地域について みんなで考えてみよう	矢野 恒	26人
4	10月5日（土）	コミュニティデザインを学ぼう	西上 ありさ （コミュニティデザイナー、 studio-L TOKYO代表）	21人
5	11月16日（土）	いろいろな地域の まちづくりを知ろう	矢野 恒 小林 友希（小杉湯となり）	25人
6	12月7日（土）	私たちの地域の しあわせって何だろう？	矢野 恒	21人
7	1月25日（土）	学びをシェアしよう	矢野 恒	23人

## 3. 受講生データ（年代内訳）

20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
1人	2人	4人	11人	8人	9人	35人

## 4. 参加前アンケート

### 4-1 この講座に参加したいと思った理由に近いものはどれですか。（複数回答可）

- 1 「コミュニティデザイン」に興味があったから…………… 14件
- 2 地域をもっと知りたいから…………… 19件
- 3 地域の中で友人や知り合いを増やしたいから…………… 17件
- 4 いろいろな人と話してみたいから…………… 11件
- 5 参加できる曜日・時間帯だから…………… 4件
- 6 その他…………… 3件

#### 4-2 この講座に期待していること、楽しみにしていることなどを教えてください。

- 「コミュニティデザイン」とは何かについて学習支援者や講師の方々から学ぶことを期待しています。  
大人塾を通じて「地域」とどうつながり、私自身に何ができるのかを知ることができればと考えています。
- この講座受講のご縁で、今後も仲良くさせていただける方々と出会えたら嬉しいです。  
また、自分の立場で何か社会貢献出来ることがあるか探したいです。
- 地元の人達と、学びや交流を通して、豊かな人生を送りたいと思っています。
- 地域内で共に活動をしていける方と、ネットワークを構築させて頂きたい。
- 人と地域とのつながり
- 地域、特に久我山地区に興味がある方々と知り合う機会を期待しています。
- 新しい人とのコミュニケーション
- まちづくりを学びたい、さまざまな角度から地域を知り、地域をもっと好きになりたい。
- まちづくりについての認識を深めること。
- これまでの経験と全く異なる分野の勉強を試してみたかった。

## 5. 講座内容の紹介

### 第1回

#### 「仲間づくり」のスタート

#### みんなでコミュニケーション！

日 時：令和6年6月29日（土） 10:00～12:00

参加者：30人

会 場：高井戸地域区民センター

学習支援者：矢野 恒



#### **【講座内容】**

今回の講座のオリエンテーションを行い、自己紹介カードを活用しての「トークフォークダンス」をウォーミングアップとして体験しました。もう少し時間が欲しかったというくらい初対面の人同士の会話が弾み、仲間づくりのスタートを楽しみました。

受講生の皆さんも、既に地域活動をされている方も含めて、地域に関心のある人が多く、講座に対する期待も高いと感じました。「まちづくりって何だろう？」というワークを通じて、各自の想いを聞く事ができ、受け身だけでなく、みんなで創っていく講座だという事も共有できる場になりました。

〔記録：学びあいの伴走人 尾関 久子〕

### 第2回

#### キャッチコピーでまちづくり

日 時：令和6年7月27日（土） 10:00～12:00

参加者：26人

会 場：高井戸地域区民センター

ゲスト講師：竹島 靖（伝説のコピーライター）



#### **【講座内容】**

講師のスピード感が有り、流れるような進行で、あっという間の2時間でした。「座右の一行・一行力の法則」\*という事で、キャッチコピーづくりのヒントを頂き、情報過多の現代に人の心に響くコピーを自分達も作ってみるワークを行い、受講生同士で「いいね！」を付けるという楽しい時間を体験しました。

竹島さん考案の「差別化点見える化チャート」での整理の仕方を知り、杉並の推しを具体的な言葉にしていく作業を通して、キャッチコピーの影響を感じました。

講師の言葉にあった『1つのまちに1つのキャッチコピー』は、皆で共有していくツールになり、それを一緒に考えて行く事で自分ごとになると実感しました。

次回に向けて自分達の地域のコピーを考える事で、より身近に感じて行けると思います。

〔記録：学びあいの伴走人 尾関 久子〕

\*座右の一行：お気に入りのキャッチコピー / 一行力の法則：有名なキャッチコピーに共通する特徴

## 第3回

### 私たちの地域についてみんなで考えてみよう

日 時：令和6年9月7日（土） 10:00～12:00

参加者：26人

会 場：高井戸地域区民センター

学習支援者：矢野 恒



#### 【講座内容】

今後の講座のワークを行うための「グループ作り」を目的として行われました。

「久我山～富士見ヶ丘」、「富士見ヶ丘～高井戸」、「高井戸～浜田山」の3エリアを設定し、1グループ6名を限度に、受講生の意思を尊重しグループ分けを行い、「久我山～富士見ヶ丘」2チーム(ほたる・なまけもの)、「富士見ヶ丘～高井戸」1チーム(シラサギ)、「高井戸～浜田山」2チーム(ハクビシン・カピバラ)の6チームで進めていくことになりました(後日5チームに変更)。そして、グループ内のモチベーションを上げるため、昨年度にすぎなみ大人塾で作成した地域クイズを用いてグループ対抗戦クイズを行いました。

後半は、今後のコミュニティデザインを考える上でベースとなる「地域マップ作り」を行い、地域のよいこと・悪いこと等々をグループ間で共有しました。グループ作りもスムーズに行われ、初めてのグループワークも活発に意見交換が進み、今後が楽しくなりそうな講座になりました。

〔記録：学習支援者 矢野 恒〕

## 第4回

### コミュニティデザインを学ぼう

日 時：令和6年10月5日（土） 10:00～12:00

参加者：21人

会 場：久我山会館

ゲスト講師：西上 ありさ（コミュニティデザイナー、studio-L TOKYO代表）



#### 【講座内容】

今回は会場が前回までとは異なったのと、雨天だったせいか欠席者が多かったです。受講生は、少しずつ顔見知りになってきた様子で、グループ内で対話されていました。

西上さんをお招きして、コミュニティデザインについて学びました。ゲスト講師の方の体験を基にお話が進み、受講生の皆さんが前のめりになって聞いているのが伝わってきました。

企画を考える時間は、皆さん、心の声を口に出して和気あいあいとした雰囲気でした。「わくわく」する企画は、発表している受講生も聴いている受講生も楽しそうでした。それぞれがポジティブに意見を言い合っているのがとても良かったです。なかには、すぎなみ大人塾に来て、受講生同士でお話し出来るのが嬉しいと言って帰られる方もいました。伴走人やサポーターが声を出すことが少なく、自主的に積極的にグループ内で会話が広がられているようにみえます。これからのグループワークが楽しみになりました。

〔記録：学びあいの伴走人 岡田 美津江〕

## 第5回

### いろいろな地域のまちづくりを知ろう

日 時：令和6年11月16日（土） 10:00～12:00

参加者：25人

会 場：久我山会館

学習支援者：矢野 恒

事例紹介者：小林 友希（小杉湯となり）

#### 【講座内容】

今回は、グループごとに人数の差はありましたが、カードゲームでコミュニケーションを取りながら進んでいました。受講生同士の距離感が近づいてきたように感じました。

矢野さんと小林さんの事例紹介は、とても自分ごとに置き換えて考えやすかったので、受講生も楽しく興味をもつことができたようでした。回数を重ねることにより、地域の見え方が変化してきているようにみえます。大きい課題から、一人で明日からでも出来そうな課題へと変わってきていると思います。小さな気づきを言葉にされているのを耳にしました。

すぎなみ大人塾に来て、受講生の輪が少しずつ広がっていくのが楽しみです。

〔記録：学びあいの伴走人 岡田 美津江〕



## 第6回

### 私たちの地域のしあわせって何だろう？

日 時：令和6年12月7日（土） 10:00～12:00

参加者：21人

会 場：浜田山会館

学習支援者：矢野 恒

#### 【講座内容】

講座の作業としては最後になり、個人ワークとグループワークの2つを行いました。最初に「海士町の事例」を紹介し、島の幸福論をモデルとして、個人ワークである「わたしの幸福論」(指標)を考え、「幸福論(指標)を実現するための行動」をシートにまとめました。

後半は、グループワークに移り、グループとしての幸福論(指標)をつくり、そして幸福論(指標)を実現するための行動をまとめ、その後、「幸福論を実現化するためのプロジェクト」をまとめました。

最後は、発表会(第7回)に向けて各グループ内で調整をしました。各グループとも「わくわく」感のあるプロジェクトを考えており、次回の発表会が楽しみになりました。

〔記録：学習支援者 矢野 恒〕



## 第7回

### 学びをシェアしよう

日 時：令和7年1月25日（土） 9:30～12:00

参加者：23人

会 場：浜田山会館

学習支援者：矢野 恒



#### 【講座内容】

本講座のテーマである「コミュニティデザイン」について、前回(第6回)に作成した個人シート「幸福論(指標)を実現するための行動」をもとに振り返りを行いました。

発表に向けて最終調整を行い、1グループ持ち時間15分で各グループの発表となりました。各グループとも作業時間は短かったものの、きちんと仕上げ発表会に臨んでいました。

発表会後は、グループごとに振り返り等を行いました。各グループとも共通のテーマに「地域コミュニティづくり」があげられ、受講生の今後の活動が楽しみな講座になりました。

〔記録：学習支援者 矢野 恒〕

#### ～各グループの発表テーマ～

- ① なまけもの・ほたる→ 楽しい久我山の輪(コミュニティ)
- ② シラサギ → 高井戸HAPPYフェス
- ③ サ イ → おいしいもの発見！！
- ④ カピバラ → 世代を超えて多様な人が集まるスペース
- ⑤ ハクビシン→ 『すぎなみMM1グランプリ』

～マチをみんなで守ろう！知ってもらおう！すぎなみMACHI-MAP 1 グランプリ～



# 第7回の発表用に各グループがまとめた資料

## <なまけものほたる>

■幸福論を実現化するためのプロジェクト		グループ名 なまけものほたる
プロジェクト名	楽しい久我山の幸福 (コミュニティ)	
プロジェクトの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元コミュニティの強いつながりを作る</li> <li>・情報の共有 → SNSの活用</li> </ul>	
だれを対象とするか？ ターゲットは	久我山に住んでいる人、関わる人 *居住にはこだわらな	
だれを仲間にするか？	最初は久我山中心 徐々に久我山に興味ある人に広げていく	
わくわく ポイントは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お酒を飲む人も飲めない人も</li> <li>・楽しめる企画</li> <li>・前向きに受け入れるようにする!</li> </ul>	
プロジェクト 立ち上げの スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年会から始めよう</li> <li>(次回 1/25 の後から!)</li> </ul>	
地域との関わり	1人から1人を誘うなど...	

C : 企画シート③

<シラサギ>

■幸福論を実現化するためのプロジェクト

グループ名 ッラサギ

プロジェクト名 高井戸HAPPYフェス

プロジェクトの概要 高井戸公園で、ダンスや音楽ステージプログラム、地元野菜の販売、試食、自然を感じる、学ぶ4キャリアウォークなどを通じて、地域の子とモカ、高齢者まで、HAPPYにする!

だれを対象とするか? ターゲットは すべての年齢層

だれを仲間にするか? 大人の塾のみなさん、<sup>地域の</sup>友人

わくわくポイントは ・地域のものを活用  
・多世代が楽しめる、食やステージプログラム

プロジェクト立ち上げのスケジュール ・メンバー集め  
・東京都、公園課への許可申請調心→申請  
・実施計画  
・実施

地域との関わり 町会(久我山、宝沢、上高井戸、高井戸)  
・近隣の学校や団体の協力

## <サイ>

### ■幸福論を実現化するためのプロジェクト

グループ名    サイ

プロジェクト名	おいしいもの発見！！
プロジェクトの概要	地域のつながりをつくるために、おいしいものを食べに行く
だれを対象とするか？ ターゲットは	大人塾のメンバー
だれを仲間にするか？	メンバーの友人・知人
わくわく ポイントは	新しい出会い(新しい人・食物・場・知)が生まれる
プロジェクト 立ち上げの スケジュール	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情交流のためのLINE を立ち上げる</li><li>・ 個々人の好みを知る</li><li>・ 第一回の幹事を決める</li><li>・ 次回以降の幹事持ち回りの有無・場所・内容等を決める</li><li>・ 開催の感想を LINE で発信し交流を深め、次回のヒントにする</li></ul>
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ その結果、地域を知り、交流を深めていく</li><li>・ テーマを広げていく</li></ul>

C : 企画シート③

## <カピバラ>

### ■幸福論を実現化するためのプロジェクト

グループ名 カピバラ

プロジェクト名	世代を超えて多様な人が集まるスペース
プロジェクトの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まりたい人/集まりたくない人もアクセスできる</li> <li>・外国人</li> <li>・幅広い世代</li> <li>・LGBTQ+</li> </ul> <p style="text-align: right;">等 } 安心して楽しめる居心地が良い！ そしてアクセスがしやすい！</p> <p>スペースでは情報共有や学び合いも出来る！</p>
だれを対象とするか？ ターゲットは	上に記述
だれを仲間にするか？	一部に限定せず「誰でも」がポイント！ <i>Diversity!</i>
わくわく ポイントは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素敵なデザイン</li> <li>・他にもいろいろ！</li> </ul>
プロジェクト 立ち上げの スケジュール	<p>特定の店にコラボを持ちかけて、イベントを定期開催 (候補)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高井戸駅前 「あいたか(和食レストラン)」</li> </ul>
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の企業とコラボ</li> <li>・地域住民との相互交流</li> <li>・高井戸清掃工場との共同イベント</li> </ul>

C：企画シート③

■ 幸福論を実現化するためプロジェクト

ハクビシン

<p>背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い道路が多く消防車が入れないこの地域をどう守るか ⇒ <b>&lt;初期消火&gt; が重要</b></li> <li>・『自助・共助・公助、近助』の前提となるコミュニティづくり ⇒ <b>各人が&lt;声かけ&gt; &lt;参加&gt; しやすい仕組み</b></li> <li>・「防災」等 MAP 作成を通じて地域の課題・良さを認識 ⇒ <b>その&lt;情報を共有・最新化&gt; する仕組み</b></li> <li>・単発、一時的な取り組みで終わらないようにするには？ ⇒ <b>&lt;学校&gt;・&lt;地域&gt;・&lt;行政&gt; が連携</b></li> </ul>
<p>プロジェクト名称</p>	<p>(仮)『<b>すぎなみMM1グランプリ</b>』 ～マチをみんなで守ろう！知ってもらおう！ <b>すぎなみMACHI-MAP 1</b>グランプリ～</p>
<p>プロジェクト概要</p>	<p>久我山～浜田山コースの防災・コミュニティMAP作成 (今まで)【小学校】授業で【通学路の危険箇所】を作成 ①「学校安全マップ」を以下のとおり<b>アップデート</b>↑</p>
<p>消防と連携</p>	<p>【小学校】が「<b>地域防災安全マップ</b>」に<b>アップデート</b>↑ ②【消火器】、【ピーポくん 110 番】の場所を追加</p>
<p>町内会と連携 (協賛)</p>	<p>【町内会】が作成（学校・地域と連携） ③「<b>地域の【名物】を追加したマップ</b>」に<b>アップデート</b>↑ ⇒町内会は、<b>毎回、回覧板に挟み込み【名物】を広告</b> ⇒お祭り等イベント発生時期に、場所等をマップに表示</p>
<p>データ化 (将来的) アプリ化</p>	<p>【杉並区】と連携 ④全地域のマップを区役所等に毎年展示 ⇒毎年の「グランプリ作品」を決定するだけでなく、 <b>「(●年に一度)今年の発表は▲▲地区」と指定して、 掲載情報を最新化させ、継続させる仕組み</b> ⇒マップを「公式電子地図サービス <b>すぎナビ</b>」に掲載</p>
	<p>【杉並区】に協力(例：電灯・樹木点検を区民が代替) ⑤歩いたコースの電灯・樹木を写真撮影してポイント化</p>

「公式電子地図サービス **すぎナビ**」: <https://www2.wagmap.jp/suginami/Portal>

だれを対象とするか	<p>地域に関わるすべての人</p> <p>-昔から住んでいる人も住み始めた人も訪れた人も</p>
だれを仲間にするか ★ポイント⇒	<p>・小学校 &amp; PTA、町内会(回覧板を通じて地域住民)</p> <p>・杉並区、警察、消防、・民間業者(見守り・協賛)</p> <p>★就活生(「地域貢献をガクチカにしよう!」と毎年募集)</p>
わくわくポイントは	<p>・(自分)家・地域を守ること、初期消火できる可能性増</p> <p>・(子供)【消火器】等を宝探しゲーム感覚で探し、場所を覚えらることで、災害時に大人の助けになる</p> <p>・(学校)マンネリ化していた「安全マップ」をバージョンアップ</p> <p>・(地域)衰退している町内会機能を強化</p>
プロジェクト(立ち上げの)スケジュール	<p>①(夏休み前) [小学校]で「学校安全マップ」を作成</p> <p>▶「学校安全マップ」の作成対象学年・指導時期を確認</p> <p>▶従来のPTA、警察に加えて、消防の追加可否を確認</p> <p>②(夏休み中)[町内会]および[PTA]等が主体となり、例えば、【消火器】等を追加するイベントを開催</p>
<p>《イベント名》あえて分かりにくい名称にしています。。</p> <p>『ファイヤーエクスティングシャーはどこですか?』</p>	
<p>▶保護者も参加する機会に「学校安全マップ」を再確認</p> <p>▶初回参加時に同マップを渡して、学校に来る途中に見つけた【消火器】の場所を申告させて、その分のシールを貼ってあげる等のゲーム性を持たせる</p> <p>▶ラジオ体操期間に同時開催、要員等をかけずに実施</p>	
新たな/継続的な地域とのつながり	<p>③(夏休み後)【町内会】および【学校・PTA】・【杉並区】が連携して、商店街の【名物】等をマップに掲載</p> <p>▶掲載条件・今年のテーマ(歩かせたい場所)等を検討</p> <p>▶お店の割引券を付けたり、独自性を持たせるしくみ</p> <p>⇒地元以外の企業からは「協賛」という形で参加を募り、資金を集めて、運営費および子育て・介護等の杉並区のサービスに活用</p>
<p>④(11月頃)【杉並区】主催の『MM1グランプリ』開催</p> <p>▶「発表校」の指定年を検討(6年間に一度は要実施)</p> <p>▶「公式電子地図サービス すぎナビ」への掲載条件確認</p>	

<b>発展 プロジェクト</b>	⑤(アプリ化):「トリマ」のように移動するとポイントが貯まる ▶情報が投稿されるとポイントが加算される仕組み等
	⑥更にアップデートするためには、区民の協力が必要 ▶インフラ点検支援アプリ「TEKKON」のようなしくみは？ <small>日本のマンホールの37.5%・電柱の5%の点検作業を達成！！<a href="https://lp.tekkon.com/">https://lp.tekkon.com/</a></small>
	⑦(地図活用とあわせて課題解決⇒タクシー難民解消) ▶アプリでいつでも呼べる(EV-)TUKTUK (トゥクトゥク) ▶GPSで位置確認することが出来て、ライドシェアも可 ▶距離や回数をポイント化して、「地域通貨」で支払 ▶区民登録者を募集(運転手は免許等審査あり)

加えて、各チームのプロジェクトを継続・改善させていくための共通の提案として・・・『10・20代の若者をいかに取り込めるか』という事がプロジェクトの成功に近づけると考えました。立ち上げメンバーだけで進めるとマンネリ化しますし、新しいメンバーや考えが生まれにくくなります。若者が参加するきっかけとしては自身の就活のためにと当初考えたとしても、地域の方との交流で成長できると思われれます。

=====

### <広報すぎなみ 募集例>

あなたの地域で活動しませんか？ - 就活生必見！地域貢献をガクチカにしよう

### 地域マップ作成 - 学生ボランティアの募集

地域住民の交流と良好なコミュニティ形成によって住みやすいまちをつくるため、防災・地域マップを作成しています。あなたの地域で活動しませんか

募集内容	防災・地域マップ作成ボランティア
募集人数	各地域ごと若干名(←あえてこの書き方)
説明概要	あなたの住んでいる地域の防災やオススメの場所を紹介する地域マップを作ります。就活前にさまざまな年代の方やいろいろなお仕事を経験されている方に話を聞くことができます。また、若者リーダーとしての経験は、みなさんのガクチカとして有益なものになると思います。学生のみなさんの参加をお待ちしています！

=====

## 6. 成果

### コミュニティデザインに対する理解

「コミュニティデザイン」に大きな関心をもって参加した受講生の皆さん。最終アンケートに回答した19名（35名中）のうち、「コミュニティデザイン」への理解が「深まった」と答えた方が11名、「やや深まった」が8名でした。「今まで考えたことのないコミュニティについて、多様なアプローチで意識することができ、刺激になりました」という感想が寄せられました。多様な地域の事例紹介も含め、一見捉えどころのないテーマを理解し、皆さんの新たな知見や学びになったと考えます。

### 自分でできることやワクワクするポイントを軸に

すでに地域でさまざまな活動を行っている人も、これから何かを始めてみたいと思っている人も、改めて自分ができること、自分がワクワクするポイントをじっくり考えることは、大事な要素だったと考えます。個人から始められることをグループワークの中で共有しながら、講座の仲間や地域でできることを考え話し合い、最終的には各グループが「幸福論を実現化するためのプロジェクト」を企画し、発表しました（p.36～p.42参照）。

あるグループでは、これまでの仕事や活動の経験から、皆が共有できる明確な課題を基にプロジェクトを率先してまとめようとしている受講生がいました。この方は、そのプロセスの中で、「これじゃ面白くない!!」ということに気づき、改めてそれぞれのメンバーのワクワク・ポイントに立ち返って企画し直したことを、大きな学びとして受け止めていました。地域で何らかの活動をする際に、一人ひとりのしあわせを大事にできる「スモール・スタート」が、地域のしあわせにもつながり循環する、ということを物語るような発見でした。

### 「集まりたくない人」もいられる、ゆるいつながりとスペースを

各グループのプロジェクト発表を聴き合った後の全体の話し合いでは、「集まりたくない人」もいられるような、地域でのゆるやかな関係性やスペースを大事にしたいという発言が続きました。それはまた、普段は皆で集まるのが好きだとしても、一人になりたいときにはそれも尊重されること、また、高齢になって集まれないような状況でも何らかの方法でつながり続けられること等も含んでいます。

受講生の皆さんが、他のグループの発表を聴いて自ら発見し深める話し合いを持てたことは、一人ひとりの意識、思考、経験等を踏まえた、まさに大人の学びだったと感じます。

### 学びあいの伴走人・サポーターのフォロー

「学びあいの伴走人」（学習支援補助者の呼称）は、昨年度に引き続き、講座の企画を学習支援者と共に検討しながら、受講生の皆さんの隣にいて学びを見守り支える役割を担っていました。令和6年度は地域包括支援センター「ケア24」の高井戸、浜田山、上井草、下井草のスタッフの方々、また、前年度のすぎなみ大人塾を受講した方々に、グループワークのサポーターになっていただきました。

サポーターの皆さんの動きを見て、次回以降に学びのサポーターになってみたいと考える受講生が出てきたことも、一つの成果と考えます。

## 7. 課題と今後の取組

### 講座の目的や展開をどの程度“見える化”するか

この講座では、「最初は目的がわからずとまどっていたが、グループに恵まれ、よく話し合えた」「講座で出てきた問いは正解のないものが多かったため、自由に発言することができた」という感想が寄せられたように、受講生の皆さん自身が振り返り、気づくことを大事にして運営しました。

一方で、「最終回の発表に向けて、グループを組み、発表内容をまとめていくという流れを受講生募集時に周知した方が良い」といった声もあり、受講生の皆さんが共通に理解できる学びの展開を、受講申込時や講座の最初に共有する必要性があったのではないかと考えます。

### 学びを深め、自分の中に落とししていく時間

今年度は2時間の講座の中で、盛りだくさんの個人ワークやグループワークがありました。受講生の皆さんがグループで行う話し合いやワークに対して時間が不足、話が深まっていく前に終了せざるを得ない場面もありました。また、講義や発表に対し、質疑応答する時間も限られていたので、気になったことを聞けないまま次に進んでしまい、学びを吸収する機会を逸してしまった可能性もあります。

実際に、受講生から「講義→グループワークの流れがよかった。ただ時間が少なかったので議論が中途になることが多かった」という声も寄せられており、この点は、今後の講座に反映できるよう、学習支援者、学習支援補助者、社会教育センター担当者間で改めて検証し、より良い学びにつながるような講座を企画できればと考えます。

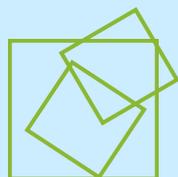
### グループ編成の仕方

このプログラムでは、第3回に関心のあるエリアを選び、5つのグループに分かれて、そのグループで最終回までワークを行いました。結果的には、ほぼ全員が出席のグループと、欠席者が多いグループができてしまい、ワークの進捗や盛り上がりには差が出ることとなりました。

構成メンバーが異なるので、グループごとの差が全くでないようにすることは難しいですが、グループによって充実度に差が出ないよう、グループ編成のタイミングや、エリアで分ける必要性、ワークが進めやすいメンバー構成にする方法等、検討していきます。

学習支援者から受講修了生へ

## メッセージ



学習支援者

矢野 恒

(やのや主宰、まちづくりコーディネーター)



すぎなみ大人塾地域コースを受講された皆さま、長期に渡り足をお運び頂きありがとうございました。  
テーマである「コミュニティデザイン」について真摯に取り組んでいただき、最後にはとても楽しい「わくわくプロジェクト」が出来あがりました。

本講座を終え、「地域の課題や良さがシェアできました」「少しずつ形が見えてきました」「講座終了後、何か繋がりを持ちたいと思った」「地域の発展のためにできることがこんなにあるのだと驚いた」などなど、仲間とのつながりや地域への想いが知らず知らずのうちに身に付いているかと思います。

これからの「地域づくり」には、その地域に住む人たちが地域にどう関わってどう暮らしていくかが大切です。その一翼を担うのが「地域コミュニティ」であり、その活動そのものが「コミュニティデザイン」です。

皆さまがこの「コミュニティデザイン」を創り上げていくことを信じております。

コミュニティデザインに正解はございません。

まずは自分に出来ることから始め、そして少しずつ輪を広げていって下さい。

その際には必ずこのすぎなみ大人塾でつながった仲間たちが手を差し伸べてくれるはずですよ。

すぎなみ大人塾を通じて生まれた「コミュニティ」を中心に「地域の魅力」を発信して下さい。

皆さまの地域活動を期待しております。



## 学びあいの伴走人（学習支援補助者）としての振り返り

地域コース2年目は講座の組み立ての仕方もわかり、サポーター含めて会場準備も手際良く進める事が出来ました。「人とつながるしくみを考える」というテーマは、私にとっても地域コースの意味を考える機会になりました。今回は他のコースとのオプション企画も有り、よりそれを意識する事が出来ました。講座が進む中で、昨年以上にグループ毎の繋がりが感じられ、最終回には全体でのオフ会も開催され、地域の中での緩やかなネットワークが生まれました。今後も地域の中で人がつながる為には、継続した共に学ぶ場や活動する場がある事が大切だと感じました。私自身も次年度はそれが続けて行けるような仕掛けをしていきたいと思います。

今年度も皆さまのお陰で新たな学びと気づきがあり、ありがとうございました。

尾関 久子

地域コース2年目は、コミュニティデザインについての学びでした。地域の課題を考えると大きなことから始めるイメージでしたが、講義を進めていく中で小さな気づきから始まり、自分がワクワクすることを行なっていくことが大切なことがわかりました。これなら私も何かを始められそうな気がします。

受講生の皆さんも大きなイメージから自分事に落として、考えられるようになってきたのを会話の中で感じることが出来ました。1年目も感じましたが、グループワークを重ねることで緊張がほぐれて心地よい意見交換が行われているのが楽しかったです。対話は、とても有効なコミュニケーションツールだと実感しました。

最後にさまざまな企画が発表され、実現するのが待ち遠しいです。3年目には、受講生と一緒に何か実現出来たらと思っています。

岡田 美津江

## サポーターとしての振り返り

昨年度の受講修了生でしたが、今年度サポーターとしてお声掛け頂き、二つ返事で参加させて頂きました。それは学習支援者の言葉通り「参加なくして未来なし 楽しくなくして参加なし」を実感し体験した立場から、地域を知り人につながる、しくみを考える今回の地域コースの裏方を務めたいと思ったからです。

結果、コミュニティをつくるまたは考える上で、皆さんの楽しそうな姿を見るにつけ本当に良かったという思いを噛みしめました。

鈴木 孝一

自身の住む地域に愛着を持ったメンバーが、吸い寄せられるように集まり、あれよあれよという間に地域課題を共有し、同じ方向に視線を合わせて動き出そうする過程を体験できたこと、大変有意義な時間でした。

ブラボー！！愛があつての地域改革！ひしと感じました。

長嶋 朋子(ケア24下井草)

## 受講生の声

この講座を受講する前と後で、「仲間づくり」「人とのつながり」「地域でこれからやってみたいこと」などについて、気持ちや考え方に変化がありましたか？具体的な変化を教えてください。

001 |

自分達の手で地域のこれからを作っていくことが出来る事が分かり、その機会があれば参加したいと思った。

002 |

人付き合いが得意ではないのですが、引っ張ってくれる人がいれば乗られる事に気づき、変わるのはいくらでも出来る事からでも良い事を認識しました。小さな一歩です。

003 |

みんなコミュニティのつながりの重要性を認識していたが、継続することの難しさを知ることができた。

004 |

チームで企画したプロジェクトを実現させたいと思った。

005 |

地域課題がより鮮明になった。

講座全体を通した感想を自由にお書きください。

001 |

月に一度講座に参加するのは、大人の部活のような感じで楽しみであり、さまざまな学びがあった。グループのメンバーと仲良くなれたのは大きな収穫だった。

002 |

地域とのつながりとは何かを考え始めました。

003 |

地域について考える機会になり、少しずつでも何かやってみようと思うようになりました。

004 |

地域の発展のためにできることがこんなにあるんだと驚いた。

005 |

講座を受けて、住民同士が繋がるのがやはり大切だと感じました。今後は地域のボランティア活動に参加してみたいです。

006 |

地域の繋がりを求めている人は案外いて、実行力のある人が中心になって巻き込んでいけば何か生まれそう。たくさんの方の知恵ですっと転がし続ける事ができたらよいのですが、そこが大変なところ。課題は多いけれど一人一人の意識が大切なのかな。まだ現役の仕事&子育て中なのでこれ以上時間は取れませんが、あと数年後にまた仲間と何かできたらワクワクしています。

